

「今、管理者が自分でやれる飲酒運転防止対策」

2021年12月1日

山村陽一

1, 八街児童5人死傷事故から学ぶ

(事故概要)

- ① 資材配達帰り、コンビニで焼酎を買い、パーキングエリアで飲む
- ② 一般直線道路で居眠り 学童5人死傷事故
- ③ 本人は、酒臭を指摘されていた。聞き流す
- ④ 会社へも、伝えられていた。対策なし

(1) 事例の分析「何故？」か、議論してみよう

- ・ 何故、帰社途中に酒類焼酎 220ml ワンカップを買ったのか
- ・ 何故、途中のパーキングエリアで飲んだのか
- ・ 何故、高速道路でなく、県道の直線道路で起きたか
- ・ 何故、学童の列に気づかなかったか
- ・ 何故、酒臭を指摘されたが、聞き流がしていたのか
- ・ 何故、会社は、何にも対策をとっていなかったのか

(2) 警察庁は、どんな対策をとったか？

(3) 県や学校の対策は？

(4) 過去のトラック飲酒運転の重大事故は？

2, ソラシドエア嚴重注意から学ぶ

(事件概要)

①2020年10月26日 那覇発 名古屋行き

先任客室乗務員が乗務前検査で自身の代りに別の乗務員に検査を実施させる不正

② 2021年3月25日 那覇発 鹿児島行き

①の先任客室乗務員が乗務前検査で、①の乗務員の代りに別の乗務員に検査を実施させる不正

- ・ 3人は、乗務開始7時間前まで飲酒していた。複数の客室乗務員が知っていた
- ・ 複数の客室乗務員が不正を知っていたが注意をしなかった
- ・ 国土交通省は、コンプライアンス意識の欠如との見解

(1) 事例の分析「何故？」か、議論してみよう

- ・ 何故、先任客室乗務員が、乗務前検査を代わりに実施させようとしたのか
- ・ 何故、言われた客室乗務員は、身代わりになったのか
- ・ 何故、複数の客室乗務員が不正や8時間前飲酒禁止違反を注意しなかったのか
- ・ 何故、発覚したのか？
- ・ 社内の酒飲みと酒を飲まない人との意見の違いがあるか

- (2) ソラシドエアは、どんな対策をとったか？自分ならどういう対策をとるか？
- (3) 過去のトラック業界での検知器不正事件は？

3, 経営者の「落とし穴」 他会社事件の「他人事」意識

- (1) 私の「落とし穴」体験
- (2) 会社への信頼、社員への信頼
- (3) アルコール関連問題知識の不足

4, 知っておきたい事実

- (1) アルコール依存症社員の存在
 - ① 社員 100 人に 2~3 人は、依存症または予備軍がいる
 - ② 仕事は真面目、お客様、仲間、後輩の受けはよい。(酒だけが心配)
 - ③ 働いている依存症の者は「ガマンする」「隠す」「ごまかす」が上手
 - ④ 依存症者の発見は難しい。多量飲酒者を作らない、引き戻すが対策
- (2) 多量飲酒者の飲酒習慣改善
 - ① 自学・自習は効果少ない。リスクの高い者ほど、自己飲酒習慣に確信
 - ② 「飲酒制限」は破られる。「適切な酒との付き合い方」を推進
 - ③ 多量飲酒者は、制限、管理強化へ不満を持つ者を仲間にして、小違反
 - ④ 小違反は隠され、蔓延する。違反は違反を呼ぶ。検知器反応 0 を心配せよ
 - ⑤ アルコール知識教育と節酒指導できる人材の育成、確保し、教育繰り返し
 - ⑥ 他社事故、検知器陽性反応発生の都度、現場において事例研究（持続性）
 - ⑦ 多量飲酒者を飲酒運転防止指導者へ。「教える」人助けは自助（自律性）
 - ⑧ 身近な多量飲酒、失敗、節酒・断酒実践、職場復帰の者から学ぶ

5, 結論

- (1) 0, 1, 2 ドリンク 1 単位 飲酒運動の推進、まず、自らの実行
会社公式行事、管理者が入った飲み会、自宅の晩酌。
以下は会社、協会などの取り組み。管理者は必要性の理解を
- (2) アルコール知識と節酒法指導きる人材の確保（せめて協会に。OB可）
- (3) アルコール依存症職場復帰プログラムの設定と明示
- (4) 飲酒事故者の回復モデルを作る。失敗⇒追放から失敗⇒改善⇒復活へ
必要な人へ、必要な情報を届ける要諦
研修、講演会、シンポジウムは情報の深度化に役立つが、
「必要な人」へは、届き惜い。
八街事件の教訓を胸におこう